

令和3年度 第1回 垂水市総合教育会議

1. 日 時 : 令和 3年 11月9日(火) 13:30 ~ 14:30
2. 場 所 : 垂水市市民館2階 大会議室
1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 協 議
3. 会 次 第 : (1) 「GIGA スクール構想」導入後の活用状況、課題及び今後の展望
(2) 意見交換
(3) その他
4. 閉 会
4. 出 席 者 : ・尾脇市長 ・坂元教育長
・田原教育委員 ・葛迫教育委員 ・田之上教育委員 ・福里教育委員
5. 教育委員会
同 席 者 : ・野村教育総務課長 ・今井学校教育課長 ・米田社会教育課長
・小池庶務係長 ・富松庶務係主事補 ・河野学校教育係指導主事 ・永倉学校教育係指導主事
6. 傍 聴 者 : 2名
7. 事 務 局 : ・二川企画政策課長 ・園田課長補佐 ・隈崎政策推進係主事

企画政策課 … 皆さんこんにちは。
二川課長 定刻になりましたので、ただいまから、令和3年度第1回垂水市総合教育会議を開会します。本日の会議の進行を務めさせていただきます、企画政策課の二川と申します。よろしく願いいたします。
本会議は、市民の皆様への説明責任を果たすとともに、その理解協力の下で教育行政を行う趣旨を徹底するため、原則として公開で行うこととされていますので、よろしく願いいたします。
それでは、はじめに、尾脇市長にあいさつをお願いいたします。

尾脇市長 … 皆様改めまして、こんにちは。教育委員の皆様方には、日頃から教育行政の基本方針や重点事項を審議いただくとともに、本市の教育の活性化のために、教育関係の諸行事への参加・学校教育活動への助言等を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。
さて、今日(こんにち)の、国はもとより本市を含めた地方の喫緊の課題である少子高齢化による様々な問題に対応していくため、地方創生を掲げ、地域の活性化を目指して、日々取り組んでいるところでございます。私は、垂水市の将来を考えたときに、最も重要な施策のひとつが、

人づくり、具体的には「子育て支援」、「教育」の充実であると考えております。昨年度からコロナ禍の影響で、様々な教育活動が制限されておりますが、ワクチン接種が進み、世の中が少しずつ平常を取り戻しつつあります。「新しい日常」とも言えるウィズコロナの時代、様々な教育課題があると思いますが、本日は、垂水らしい「GIGA スクール構想」について、本市の整備のこだわりと具体的な進捗状況について理解を深めていただき、今後、1人1台の端末を、更に効果的に利活用しながら、学校の授業がどのように改善され、また、子供たちの学びがどのように深まり広がっていくのか、生活がどのように変わっていくのか、教育委員会の説明を基に、意見交換を行うよい機会になれば幸いです。

「GIGA スクール構想」は「すべての児童、生徒のための世界につながる革新的な扉」という意味があるそうです。垂水の教育がさらに充実し、日本や世界で活躍する子供たちの育成へとつながりますよう、教育委員の皆様のご意見をお聞きしたいと存じます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 企画政策課 … それでは、協議に入りたいと思います。
- 二川課長 … ここからの協議事項に関する進行は尾脇市長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。
- 尾脇市長 … それでは、まず、協議事項(1)「GIGA スクール構想」導入後の活用状況、課題及び今後の展望について、学校教育課の説明をお願いします。
- 学校教育課 … 皆様、こんにちは。私は、教育委員会学校教育課の河野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

これから、「垂水らしい GIGA スクール構想」について、本市の整備のこだわりと具体的な進捗状況についてお話いたします。本日の内容は、垂水らしい GIGA スクール構想とは何かをお伝えしたうえで、こだわりの4本柱について、それぞれの中身と現状を説明いたします。次に、本市は今のところよい活用状況が進んでいますが、その利活用を支えるこだわりの環境整備について紹介をさせていただき、教育活動での活用の様子を写真等で説明いたします。最後に、今後に向けて成果と課題の説明をいたします。

はじめに、本市のこれまでの ICT 環境については、教室に大型のテレビや教材提示装置がない、授業での活用が見られないという厳しい状況がありました。そんな中、国の「GIGA スクール構想」をきっかけに、最高の教育環境を作り出そうと準備を進めてきたところでございます。南日本新聞(4/26 付け)の協和小学校の記事やテレビで、県内で最初に GIGA スクールの取組が紹介され、更に新城小学校や垂水中央中学校の取組の様子が立て続けに紹介されました。6月3日の KYT のニュース特集では、5分ほどですが市長にもインタビューに出させていただき、垂水の GIGA スクールの状況が放送されました。

このように、県内でも大変よいスタートを切れた垂水の GIGA スクールですが、「垂水らしい GIGA スクール構想」に基づいて我々は進めてまい

りました。国の GIGA スクール構想の目的としては、「ソサエティー5.0」時代を生き抜く子供たちへの教育です。現在がソサエティー4.0時代で、すでに PC・情報機器等がかなり入ってきていますが、「ソサエティー5.0時代」とは現実の世界とバーチャルの世界がさらに融合していく社会だと言われていています。簡単に言うと、AI がいろいろな世界に入り込んでくる時代とっていただけたら分かりやすいと思います。そのような時代ですから、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進等、教育が大きく変わる転換点だと示されております。こちらの GIGA の端末が、持っていることや使うことが当たり前の新たな文房具になることが、「令和の学びのスタンダード」と国は示しています。このような国の方針・目的に沿った形で進めていきました。目指す子ども像・将来像は、教育委員会がゴールイメージをしっかりと持たなければと考えたものになります。まずは読解力、思考力、表現力等の基礎学力をしっかりと身に付け、適切にコミュニケーションを図り、他者と協働し、折り合いを付けながら合意形成できる、皆でしっかりと考えながら課題を解決する力を子どもたちに付けていく。また、日常生活・学校生活の中で ICT をどれだけ上手に使いこなすかというレベルではなく、新しいことを創造し、課題を解決でき、地域や世界に貢献できる人材に育てていく。こういったゴールイメージを持ちながら、AI 時代に輝ける人材育成を考えて進めているところです。私たちが大切にしたいことは、整備はあくまでも「手段」であって、「目的」は子供たちに力を付けることです。整備する段階で、全体像や活動場面を常に意識し、教育総務課とのネットワーク整備や端末整備に係る連携や、その他情報部局との連携を取りながら、坂元教育長の一番の方針である、「教育委員会の『本気』の整備で最高の教育環境を創る」という考えで環境整備を進めてまいりました。「垂水らしい GIGA スクール構想」の特徴について、これから一つ一つ説明いたしますが、①「持ち帰り前提」の端末整備、②AI ドリルの導入と活用、③学習面だけでなく「生活面」まで広げた活用、④学校の「壁」を超えた交流の促進、以上四つの柱が垂水らしさだと考えております。結果として「学力向上」「生活指導」の充実、「ソサエティー5.0」時代を生き抜く子供たちに必要な資質・能力の育成を目指しています。

では、「垂水らしい GIGA スクール構想」の現状を一つ一つ紹介します。まず①「持ち帰り前提」の端末整備について、学校内だけでなく校外学習や家庭学習でも活用でき、宿題だけでなく自主的な学習も利用できる、そしてモバイル Wi-Fi ルーターを通信費も市が負担して貸し出しをしながら整備してきました。本市独自の取組として、一つ目はネット環境のない家庭もごさいますので、学年ごとに数を調査し、一番多い学年数分のモバイル Wi-Fi ルーターを学校に整備しております。このことにより最低でも一学年分の Wi-Fi ルーターを用意し、ローテーションを組みながら貸し出しを行える状況を作り出しています。モバイル Wi-Fi ルーターの貸し出しも県内で中々無い事例です。さらには、「ふるさと垂水」等

の行事でも持ち出して活用しています。二つ目は、持ち帰りの手続きやルールも決めました。3月には垂水市セキュリティポリシー例外運用を認めていただき、クラウドを利用できるようにしています。5月には持ち帰るための要綱策定や子供たちへ実際にルールを示すことなどを行って、5月から持ち帰りを実施することができました。三つ目は、持ち帰り用衝撃吸収バッグを児童生徒一人一人に用意しました。机の横にかけておき、授業中でも端末が邪魔になったら片付けられる、必要な時はすぐ取り出す。他市では机の中に仕舞うと落としてしまっ壊すということもよくあると聞いておりましたので、破損防止にも大変役に立ちました。衝撃吸収バッグまで付けたのも本市ぐらいだと聞いております。では、実際の活用状況を紹介します。10月22日の南日本新聞の内容ですが、協和小学校の子供たちが水族館にタブレットを持って行っている様子です。こちらは新城小学校で6月の第2土曜日に全家庭に持ち帰って、オンライン授業の練習をしたという紹介の記事です。GIGA スクールの準備を進めていった結果がこのような成果になりました。9月には新型コロナの第5波で学校に来れない生徒も出てきましたので、通常の授業をしながら端末でその様子を同時配信するというハイブリットな対応を実施することができました。文部科学省の端末利活用状況等の実態調査について確定値が出ましたが、非常時の端末の持ち帰り学習の実施状況は全国で66.5%と、3分の2ほどの学校は準備できています。平常時の端末の持ち帰りの実施状況は26.1%、4分の1ほどが実施していると回答しています。しかし鹿児島県の数値は非常時の端末持ち帰り状況は35.5%、平常時の持ち帰りに至ってはたった4.4%。こちらはどういう数字かといいますと、19市のレベルでは5月から本市、7月から南さつま市のみ実施に至っている状況です。

二つ目のこだわりは AI ドリルの導入です。本市は(株)TOPPAN 印刷の「navima」を5年契約で導入しました。AIドリルでは、AIが子どもの間違いの様子を分析し、その子に合った問題を出していく「個別最適化された学習」が可能です。ちなみにAIドリルの導入は、19市のうち垂水市、霧島市、南さつま市、枕崎市のみです。AIドリルには「習熟度ヒートマップ」という機能があります。子供たちの学習の様子が色分けされて一覧で示されます。習熟度が見える化されることで指導も的確に行えます。このような機能を、授業の定着場面や朝学習・土曜授業の補充学習、宿題や自主的な家庭学習で活用することが可能です。実際に、子どもたちはゲーム的な要素からどんどん学習していきます。市教委「学びの教室」でもAIドリルを実施しましたが、Wi-Fi環境がなかったのでこちらも市教委が提供しました。そのようにしながら分からない部分は先生たちに聞くという形で進めております。

三つ目のこだわりである、学習面だけでなく「生活面」まで広げるとするのは、(株)EDUCOMの「スクールライフノート」を5年契約したことです。毎日の朝と帰りの時間に、「心の天気」として日々変化する心境を記

録していきます。これにより子供の変化に早く気付いて早く対応できる。晴れ・雨・曇り・雷の四つの天気です。低学年も含めて毎日活用できるのではないかと考えて導入しました。スクールライフノートの導入は本市のみです。先生側が見るウォッチャー画面では、児童生徒が記録した天気の一覧を見ることができます。他の子と比べて曇りが多く、雨になったり、次の日は入力もしていない子供や、朝は晴れなのに帰りは雨と入力している子供がいると、学校で何かあったかな？と子供の様子に気付いていけます。担任だけでなく校長・教頭など職員全員が閲覧できるので、皆で見て皆で気付いて対応する、生徒指導に大事な組織的対応の第一歩になると考えました。

四つ目は学校の「壁」を超えた交流の促進です。本市は特に小規模校が多いので、多様な意見に触れさせる機会を持てるようになるのではないかと、こだわって導入したものになります。こちら昨年から実際に始めていたものですが、牛根3校が取り組んだ交流事業は今でも続けておりますし、本市の取組として周辺機器の整備を進め、大型ディスプレイを普通教室と特別支援学級にまで全て配備をして、高性能のウェブカメラ・集音マイクのセットを配備しました。さらに大人数対応のウェブカメラを市教委で用意し、いろんな配信もできるようにしています。文部科学省の令和2年度学校における教育の情報化の実態調査では、普通教室の大型提示装置の整備について国の平均は70%、本市は令和2年度内にすべて配備が終わりましたので、普通教室は100%を達成しています。松ヶ崎小学校の様子ですが、こちらの写真ではディスプレイに垂水小学校の5年生が映っています。少人数の学校と垂水小で合同の社会科の授業を行い、いろんな意見の交流ができるように活用されています。また、5校の就学旅行前の打合せはWeb会議で行いましたが、終わった後もおしゃべりタイムとして、その後も交流が続き、まさに学校の壁を越えた交流が続いているところです。7月22日付け南日本新聞に掲載されました、保健課と学校教育課が一緒に行った「SOSの出し方教育事業」では、高橋聡美先生をお呼びして授業をしました。ただ、全校に行って講義してもらうには物理的に困難でしたので、水之上小学校で行った授業を新城と柘原にもオンラインで配信をしました。ZOOMなのでオンライン接続校からも質問まで受けることができました。このような形で他の学校の児童もオンライン化でこの授業を実施できております。遠隔のシステムを大いに活用した事例になります。さらに牛根小学校で行われた研究公開では、全てオンラインで行われました。こちらに映っているのは前の境小の教頭先生で今は奄美にいます。奄美の先生も参加ができるというのもオンラインのよさだと感じています。

このような利活用がどうしてできるようになったのか、ここには「こだわり」の環境整備がございます。まず一つ目はネットワーク。これだけのやり取りができるためには、ネットワーク整備がきちんとしていなければ動きません。教育総務課の担当に、全員がクラウド型サービスを

利用できるように進めていただきました。国が示す一人あたり2メガ以上の回線容量の確保のため、こだわって入れていただきました。おかげで一度もネットが止まった、使えない、という声を聞きません。他市では使い物にならないという話をよく聞きます。本市はこの土台がしっかりしていることが有難いです。二つ目は学校教育課で進めた端末のグレードアップです。「navima」、「スクールライフノート」、「ロイロノート」など様々なクラウドサービスを最初から授業で使えるようにしました。三つ目はICT支援員の拡充です。これまで本市全体でたった9回しか派遣されなかった支援員を、年間200日派遣してもらい、常駐してもらう形にしました。民間委託することでしっかりとサポートを受けられます。週1回必ず各学校を回り、分からないときにいつでも聞けるので、学校から大変好評です。四つ目はフィルタリングをクラウド型で入れたということです。持ち帰りのためには、家に帰ってもしっかりとフィルタリングはかからなければならないと考え、「Cisco Umbrella」を導入しています。ただ、100%というのはありませんので、「情報モラル教育」や「情報セキュリティ教育」の重要性を学校側にも伝えていきます。五つ目は、1月から3月までの導入前の段階で市P連と連携し、「家庭のルール」づくりについて取り組みました。まず各家庭からルールを出してもらい、その中から良いものを各学校の代表に七つ選んでもらいました。そして出来上がったものを各家庭に伝えて、「家庭のルール」をさらにブラッシュアップするという取組を行いました。おかげでそれまで7割前後しかなかった「家庭のルール」の設定率が、本市では9割を超えております。家庭にもしっかりと根付いてきたと思います。

では、授業や教育活動での活用の様子について、意味のある活用の事例を紹介します。こちらは新城小学校での生活科の授業で、おもちゃを作成したときの様子です。写真のQRコードには、先生が事前に「Fliopgrid」というサービスを使って撮影した、おもちゃの作り方のヒント動画が見られるようになっています。子供は分からないときQRコードからアクセスして、自分で動画を見ながらおもちゃを作ります。もしQRコードがなければ、先生が付きっきりで教えることとなりますので、その間他の子供たちは待たされます。QRコードがあればいろんなところに先生がいる状況になっていますので、まさに端末のよさを生かした授業をしているなと思いました。その授業の中でどのような工夫をし、おもちゃがどれだけ進むようになったかを写真で記録していきます。それをロイロノートで1年生、2年生が発表しています。さらに驚いたのは、授業の最後に1・2年生が大学生のように板書を端末で撮っています。小学1・2年生がロイロノートに記録していったものがずっと蓄積していきます。このような扱い方まで新城小学校は行っています。授業研究という先生たちの話し合いの場でも、Web上のホワイトボード「Jamboard」を使って意見交流をしています。二つ目、こちらは垂水小学校で行われた地区指定研究公開での一コマです。ジェスチャーを交えて二人の子供

たちが英語のやり取りをしています。それをもう一人が動画を撮り、それをみんなで見合います。ここができて、ここができていないと確認をしていく。改善点をみんなで共有し、もう一度やってみる。自分でやっているつもりだけど、できていないということが分かる。自分のことは中々見えないので、それを可視化できるのも端末のよさだと思います。三つ目、水之上小学校でのロイロノートの「資料箱」を使っている様子です。こちらにはちょっとしたヒントカードを入れてあります。子供は分からなくなったら自然とヒントカードを見に行き、問題を解いてみんなで話し合っ解決法を考えて、モニターに移して発表します。柘原小学校でも、写真のように2年生がロイロノートを使って同じように授業しています。今は低学年の子供たちでもこのようなことをどんどん行っています。今度は先生方に目を向けてみますと、垂水中央中の研究授業に端末を持参し、指導案にメモを書き込んで写真を入れたりしています。紙だと中々できません。それを持ち寄って授業研究でも活用できます。さらに中央中では部活動でも活用し、大会の速報を打ったり、普段の練習の様子を撮って見せたり、試合の生中継などにも活用しているそうです。

今後に向けて、成果と課題をまとめます。端末稼働率はほぼ100%であり、日常的な持ち帰りだけでなく、夏休みの期間中でも持ち帰ることを実現できています。ロイロノート等の授業の活用場面も増加し、生活面ではスクールライフノートで早く気づいて早く対応する生活指導問題の未然防止にも繋がっているということで、効果があると聞いています。このような、よさと有効活用事例だけでなく、「Teams」というサービスを使って失敗事例も共有することで活用が進んでいるということです。こちらの表は「navima」の活用状況ですが、4・5・6月と上がって夏休みに少し下がりましたが9・10月また同じぐらいまで使っています。本市では6月以降本格的な利活用が進んでいることがお分かりになるかと思います。日別比較の表では土日が赤で示されています。平日だけでなく土日も活用が進んでいますので、持ち帰りの効果かと思います。三つ目は時間帯別の各学校の活用状況の資料です。例えば8時は中央中の数値が高いですが、朝に学習の時間を組んでいるということでした。9時～11時は授業中ですので様々な教科でいろんな学校が使っているのが見えます。16時から様々な学校が持ち帰りを行っており、家庭でAIドリルを活用していることが分かります。

課題について説明いたします。まず、学校間・職員間での格差です。そこをどう是正していくか、誰一人取り残すことのない、というのがポイントです。そのためには学校や教育委員会が研修等をしっかり仕掛けていき、格差を埋めていく努力が必要だと考えます。また、持ち帰りによる破損件数の増加も心配していましたが、実際に本市で起きた破損事例3件は全て1学期の授業中のみで、持ち帰りでの破損についてはまだ聞いておりません。2学期は一切ありませんので、学校でしっかり指導

することで防げるということも見えているところです。さらなる課題は、効果的な GIGA 端末の活用をもっと追及していくことです。無意味に端末を使うのではなく、意味のある場面での利活用にこだわって指導しておりますが、ここを見出していくというのが今一番の課題だと考えます。また、人事異動への対応の課題もあります。推進役をどう継承していくか今後の課題かと思えます。学校や教育委員会がブレーキにならないこと、むしろ「アクティブ・ラーナー」となりどんどん学んでいくことが重要です。そして、「目的」と「手段」を取り違えない取組も課題です。使わせることが目的ではなく、使って子供たちにしっかり力を付けさせるために意味のある活用を目指しながら指導を進めていければと考えています。

垂水の GIGA スクール構想の進捗状況等についてご説明いたしました。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

以上で終わります。

尾脇市長 …… ありがとうございます。ただいま、学校教育課より説明がありました件につきまして、ご意見・ご質問があればお願いいたします。何かありませんか。

田原教育委員 …… さまざまなサービスを使っていますよね。これらについては、どのように学校に宣伝したのか、どこが宣伝を行って、活用の仕方等についてはどういう研修があったのか、その辺を教えてください。

尾脇市長 …… お願いします。

学校教育課 …… ありがとうございます。今年の1月に先生方や保護者向けにリーフレットをお配りして、どのようなサービスを導入するかというお知らせをしております。それから昨年度の9月から情報教育部会という事前研修システムで各学校の代表に集まってもらい部会を作り、AI ドリルの使い方の研修を事前に先生方に実施していただきました。今年度もスクールライフノート・AI ドリルのオンライン研修等を行いましたし、ロイロノートについては秋にももう一度復習として市独自で各学校にお願いして研修を実施していただいたりというように、進めていったところです。以上です。

田原教育委員 …… 要約すると、学校にいろんなサービスがあるということを紹介して、どれを使うかというのは、教育委員会が指示したわけではなく、学校がそれぞれ独自に活用をしながら、現在こんなに発展しているということでしょうか。

学校教育課 …… そうですね。ロイロノートの活用はまだまだ難しいところがありましたので、学校にいろんな成功事例を伝えながら広めているところです。

尾脇市長 …… よろしいでしょうか。(はい。)

他にありませんか。

葛迫教育委員 …… GIGA スクール構想の中に横文字がたくさん出てきますね。ソサエティー5.0 時代を生き抜く子供たちへの教育支援ということですが、AI の時代とはどんな時代なのか分かりやすく説明していただけたら有り難いで

す。

学校教育課 …… 仕事が AI に取って代わられる、運転なども自動で行えて運転手がいなくなる、私たちのような教員も教えるだけなら機械でできる、こういう時代だということです。ただ AI の時代と言っても、先ほどの説明の中で目指す子ども像があったかと思いますが、いろんな考え方がぶつかったときに、簡単に 1 か 0 かでは決められないとき、そこをどのようにそれぞれのよさを入れながら解決するか、というのはやはり AI ではまだまだできないのではないかと思います。教育委員会ではそこがポイントになってくると考え、子ども像・将来像をお示ししたところです。AI だけで 1 か 0 か決められないというところも人間でなければできない、人間のよさを出して解決していけるようにと、お示ししたところですが、まだ案ですのでもっとよい表現があれば教えていただきたいです。以上です。

葛迫教育委員 …… やはり人間というのは五感を大事にします。その五感を AI の中でどういう風に表現・教育していくのか、これからの課題になるのかと思います。見る・聞く・触る・匂う・食べる、そういうことを AI ができるようになると GIGA スクール構想も変わってくると思いますが、それはこれからの課題ですか？

尾脇市長 …… そうですね。これが正解というのも中々無いと思います。私なりに考えているのは GIGA スクール構想がスタートして、ツールとしてより便利にはなってきているとは思いますが、先生がおっしゃるような五感の部分というのはこれからだろうと思います。科学的な進化によってそういったものにも追いつくような機能も出てくるかもしれません。それはこれからであって、今のところは非常によい形でスタートを切ることができていると思います。これまで垂水市の ICT 環境は非常に遅れておりましたが、光の整備も中心部以外のエリアでは基本的なものはありませんでしたが、今では結構整備が進んできました。この GIGA スクールも相まって、教育委員会の皆さんが中心になって企画と連動しながら積極的に取り組んでいただいたおかげで、県内においてはむしろ先進地的な事例ということでテレビ・新聞で取り上げていただきました。AI ドリル等の活用の中でも、私はスクールライフノートが特徴的だと思うのですが、このスクールライフノートは子供たちの精神的な部分にある意味ウォッチできます。心の状態が天気によって変化していく、朝は晴れだったけれど帰りは雨・雷なら学校で何かあったかな、それが週ごとに毎日出るわけですね。傾向として月を通して雨とか曇りが多いとなると、それはやはり問題を抱えているのではないかと、そういういろんな部分が、これまで教える側の感覚的な部分に頼る部分が大きかったのが、子供たちに自己申告していただいたり、あるいは担任の先生だけではなく補助先生も含めて皆で見回りができることで、カバーしていただけるということでもありますから、学習力の向上の土台である心身の健全についてもカバーできるような状況でありますので、今のところうまく活用できてい

るのではないかなと感じています。

他にどうでしょうか。

坂元教育長 … 葛迫先生がおっしゃった AI と人間の関係。私はよく藤井聡太の将棋を
思います。彼は AI で学んで結果的に AI を超えていますよね。私は AI と
いうのはそういうものではないかなと思います。小さい頃から AI でどっ
ぷり学んでそれでもって将棋の勝ち方を学んだ。けれども彼の打ち手は
AI を超えています。AI でさえも出さなかった解を導き出す。それがまさ
に人間の力です。ただしその過程の中で AI に随分学んだわけです。それ
を自分の中に吸収して、アウトプットして今の藤井聡太があるわけです。
だから私は決して人間は AI に劣る存在ではなく、まさに超えていくと思
っています。そのためのツールとして我々は使っています。

尾脇市長 … 今後また進化していきますので、先生がおっしゃった五感の部分に追
いついていくこともあるでしょう。今は GIGA スクール構想をスタートし、
課題等について共通認識を持っていきながら、その後どのように対処を
しながら進めていくかというのが大事になってくると思います。

田之上委員、いかがでしょうか。

田之上教育委員 … GIGA スクール構想というのは、小規模校の多い垂水市にとっては非常
に有効活用ができるやり方だと思います。小規模校で本当にうまく使い
始めているなど、参観の際にも感じているところです。一方、大規模校
の中央中がよく使っているというお話を聞きましたが、例えばロイロノ
ートを使って子供たちが自分の意見なり解答を一斉に 30 人・40 人出した
場合、小規模校だと二人分の解答が大きな画面に出てきて、見てぱっと
分かりますが、それが 40 人分だとぱっと見で分かりにくいのではないか、
というのが心配です。それから、担任の先生も見ることが多いことで実
際に子供から目が離れるのではないかと心配しています。できれば補助
的な先生がいて、子供たちを見ていただきながら先生も気を付けていけ
るといいのかなと思っています。あともう一点聞きたいのは、タブレッ
トを使う中で他の子供のパスワードを使って書き込みをしたりですと
か、いろんなトラブルのニュースを見ますが、本市では何かトラブル等
は上がってきていますか？

学校教育課 … 確かに学校に入れたテレビに 40 人の画面では小さいかもしれません。
例えば工夫の仕方として、ロイロノートはカードの色を分けることで
できます。賛成・反対、あるいは真ん中であれば 3 色に分けて指定すると、
生徒が送ってきたときに賛成と反対どちらが多いのかぱっと見えるよう
にできますし、書いてある字を見て、押せば大きくなりますので、逆に
そういうものがない時代は先生たちが生徒を見回って、ノートの様子
を見ながら、書いている子を見つけてその子に言わせるだけだったのが、
全員分を吸収できる、そしてその時触れられなくても後からこんな気付
きをしていたんだと気付ける、こういうことがロイロノートを活用する
よさになると思います。最終的に自分の考えを書いて出させると、あま
り見れなかったところも確認でき、評価にもつながり今後活かせると

いうよさもたくさんあります。先ほどのAIドリルの場面で習熟度ヒートマップをお見せしましたが、あれも色分けでぱっと見えるようにAIがやってくれますので、そういう機能を使うと今まで先生方が感覚的に見て回って確認していたところを、数字や画面で見て気付けるということが、誰一人取り残さず教育していけるツールになっていると思いますので、今までよりもプラスの面もあります。当然そればかり見ると今言われたご指摘のとおり、子供をしっかりと見てほしいですので、そこはうまく使い分けるとというのが今後の課題になるかと思っています。使い方によってはすごく便利になるかと考えています。

坂元教育長 …… 二つ目の回答よろしいでしょうか。町田市であったたいじめの事件ですよ。あれは子供のパスワードが単純な数字でした。簡単に盗まれる。本市の場合はパスワードがアルファベットと数字の組み合わせですので、それが盗まれることは絶対無いです。ただ気を付けなければいけないのは、オンライン授業で回線を結んだときに、授業後にきちんと回線を切らないと、それが繋がったままだと実は子供同士では繋がってしまいます。ここは気を付けなければいけないと指導・点検しておりますので、本市においてはそういう事案が発生するというのは入ってきておりません。以上です。

尾脇市長 …… 先ほど、田之上委員が一点目にお話しされたことは私も考えておりました。冒頭に「ツール」というのを申し上げましたけれども、教える側の先生の力量によるものも大きいと思いますので、ご指摘いただきました心配もあると思います。一方で導入したことのメリットもありますから、課題となりそうなところはしっかりとクリアしながら、長所が前面に出てくるような使い方を、今後指導を徹底していただければと思います。

福里委員、いかがでしょうか。

福里教育委員 …… まずこのGIGAスクール構想が始まる前に、持ち帰りの説明があったとき、私は絶対持って帰ってこないでほしいと言いました。壊してしまったらどうしようと、それが一番心配でしたが、実際には子供がすごく嬉しそうに持って帰ってきます。とても特別なものを持って帰ってきたかのように、今日は国語の授業があると喜んでいたので、何で？と聞くと、タブレットを使えるから、と言っていたので、子供には特別な手段なんだと思いました。よく他の保護者の方から「授業でタブレットだけ使っていると聞くけど大丈夫なのか」というのはよく聞きます。どうしてかという「タブレット」イコール「遊び」のようなイメージがやはりまだ保護者の方にはあるので、私はその方に「いろいろ目的を考えて使っているからいいと思うよ」と伝えましたら、その方も「それならよかった」とおっしゃいました。子供はすごく喜んで使っていて、それが勉強の意欲にもつながっています。授業参観に行くと、やはり問題点として挙げられているように、クラスでも格差がありまして、子供からも、1組は使うけど2組はあまり使わない、なども聞きます。学校訪問

で新城小では同じ学年でもハイテクなことをしているのを見ると、中学校に行ったときにちゃんと足並みがそろうのかなと心配しています。しかし、子供たちが今からの時代に先進的な勉強ができることは有難いと思っています。以上です。

尾脇市長 … 以前、協和小に視察をさせていただいたときにインタビューを受けまして、地方にあつて都会と格差がないようにとコメントした記憶がございます。全体的に導入したメリットはございますが、やはりどちらかと言うと子供たちというより指導をされる先生方の力量によって、学校間やクラス間での差ができるだけ無いようにということです。昔でしたら教師生活何十年というのがある意味よかったです。この IT 機器というのはその経験とは反比例してありますので、格差になっている部分を埋め合わせていくというのが、今後の全体的な課題としてはあると感じています。

この GIGA スクール構想についての質問は、他にございますか。

田之上教育委員 … 先ほども出ましたが、先生や子供、学級の中でも差がありますね。たくさん使う中で個別に指導することも必要だろうと思います。結局は考え方ですね。これを使っていかに基礎学力をつけていくのかということをも根本に置いて活用しているんだという自覚をそれぞれの職員が持つことが必要だと思います。授業を見ていますと、非常に効果的な活用の仕方を今それぞれの学校がしていますけれども、それを練り上げていけばだんだんと基礎学力の向上に結びついていくのかなと、今はそれぞれが模索している時期なのかなと思います。

尾脇市長 … ありがとうございます。

それでは、GIGA スクール構想以外で、教育全般について常日頃思っていること等、問題提起も含めて皆さまからいかがでしょうか。

田之上教育委員 … この前、鹿児島での教育委員の会に出席した際、子供数がどんどん減っていくので学校統合が必要になってきているという話が上がりました。保護者の方の意見としては統合を進めたいという意見がありましたが、地域では児童生徒数がゼロになるまでは学校は存続してほしいということでした。私としては、子供を第一に考えた方がよいのではないかという意見を言われた方がいらっしやったので、やはり垂水市も GIGA スクール構想で充実していくとは非常によいのですが、現実として統合の問題をどう進めれば良いものか悩みます。地域がまとまればすぐ統合に進めるのだけれども、そこが難しいということだろうと思います。

尾脇市長 … 議会でも出る問題ですが、それぞれの立場で答えが違います。一般論としてお話しされました、子供のことを考えると統合したほうがよいのではないか、それが正解かどうかは別ですが、地域の皆さんは例えばそこに小学校があることでいろんなコミュニティーとか、それを残してもらいたいということがあります。これまで垂水市では過去に中学校の統合がありました。結局垂水中央中として一つになったのですが、小学校となると特に難しい問題があります。今先生がおっしゃったように

皆さんの考え方が一致していけば非常によいのですけれども、その部分を主導的にどうしていくのかというのはいろいろ課題があります。まずは地元の多様な声を聞いて、ある程度取りまとめていただいて方向性を確認しながら進めていくとなると思います。

他にいかがでしょうか。

私から一つ、世の中が大きく変化していく中で、21世紀は知恵の時代だと言われる人もいらっしゃいました。知恵は知識の積み重ねであるという言い方もされます。少なからず経験の中で人生いろんなことがあって、上手くいくこともあれば上手くいかないこともある、多分に上手くいかないことの方が多いと思いますけれども、その時の問題解決をしていくための力、七転び八起きということわざがありますが、そのような部分が今後重要になっていくのではないかと思います。そこでGIGAスクール構想の話がありました。学力的なものは環境が整っていますし、スクールライフノートでも精神のカバーというところも少し補完できています。今のところGIGAスクール構想については比較的順調にいつていると思います。先だって10月末にいわゆる夜回り先生である小谷先生と話をする機会がありまして、垂水市のGIGAスクール構想に非常に感銘を受けていらっしゃいました。垂水の中学校・高校・保護者の皆さんとお話をさせていただく機会を、教育委員会を通して企画をしたいと思っておりますので、ご了解をいただきたいと思っております。

最後に、全体的に教育長からいかがでしょうか。

坂元教育長 … GIGA スクール構想そのものに対して、私は熱い思いを持っておりまして、この5年間で示された子供の将来像、あくまで案でございますが、こういう子供を育てられたらいいなと思います。やればやるほどいろんな課題が出てくるのがこのGIGAスクール構想です。垂水市はたくさん実践していますから、先ほど教育委員の方から出たような意見もございません。他市町を見るとまだまだその段階まで行っていません。見に行っても常にタブレットを使っている様子を見れるわけではないです。垂水市がまず一歩二歩先に行っていることは間違いありません。私は次に何にこだわりたいかという、質を高めるということです。使い方の質を高める、イコール授業の質を高める、あるいは教育の質を高めることに通ずると思っています。スクールライフノートで測れる心の安定度というのは、学力向上とは表裏一体です。そのことを見越したうえで導入したわけです。教育を、学力向上や情報処理能力を高めるということだけでなく、トータルとして、今後厳しい予測不可能な時代をたくましく生き抜く力を備えた子供たちを育てるために、この垂水らしいGIGAスクール構想を一歩も二歩も前に進めていきたいと、それが私のこだわりでございます。以上です。

- 尾脇市長 … ありがとうございます。
それでは、今日出たご意見を参考にしながら、子供たちの環境がよりよく進むように今後も意見交換ができればと思います。それでは、本日の協議事項は終了いたしましたので事務局へお返しいたします。
- 企画政策課 … ありがとうございます。
二川課長 本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。
これをもちまして、令和3年度第1回垂水市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。